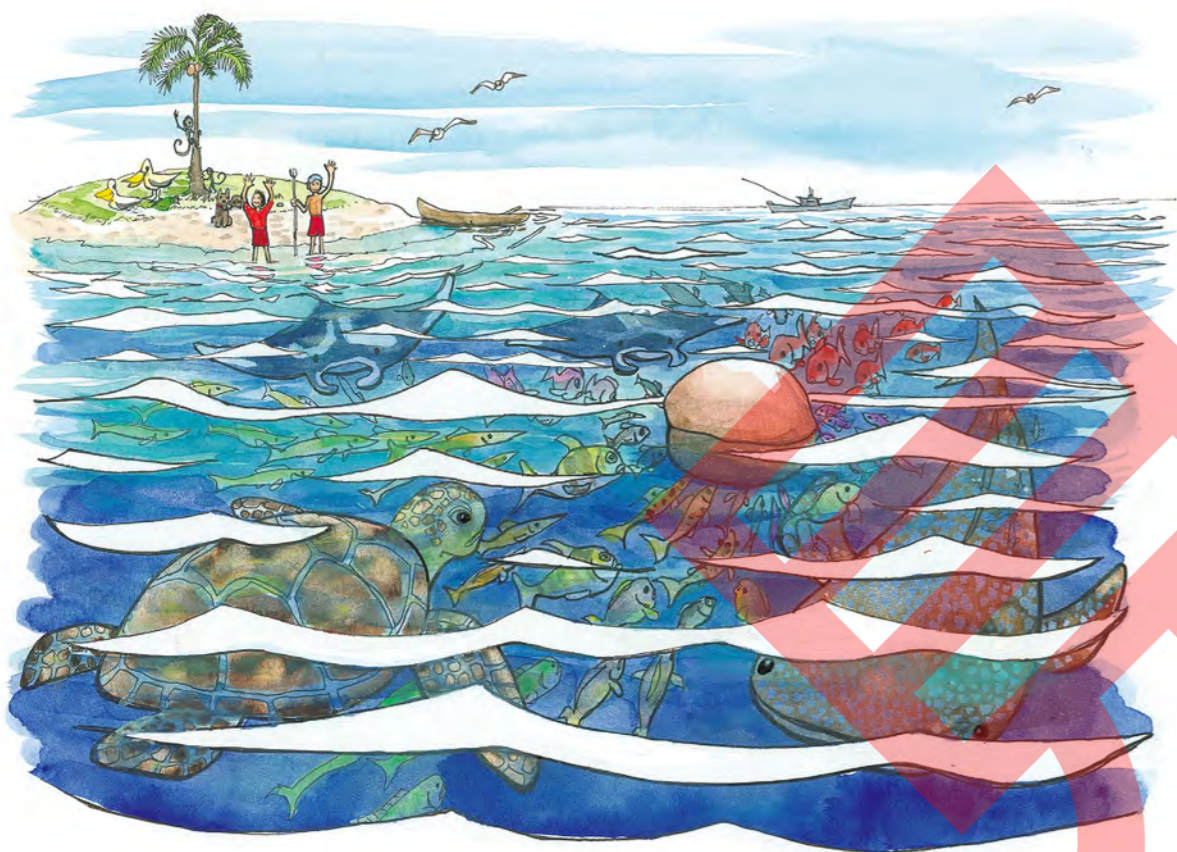


令和
6
年度版

さくぶんのとも 1

～かくこと だいすき～



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

1	ね ん		く み	な ま え	
---	--------	--	--------	-------------	--

先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
 - ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和6年度版 作文の友 1年

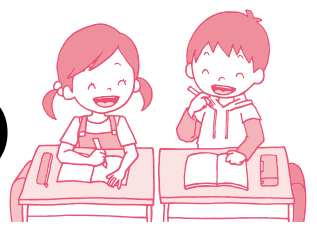
編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819

印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

ぶんをつくらう

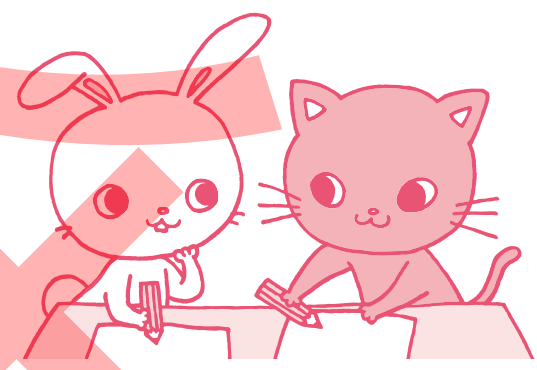


さくぶんのとも

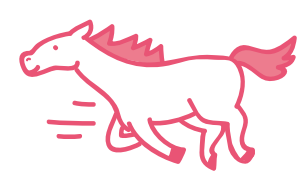
～かくこと

だいすき～

1



「が」をかこう



が
が
が

う
ま
が
○

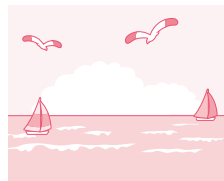
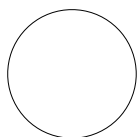
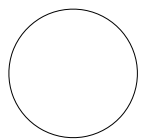
ひ
と
が
○

8	7	6	5	4	3	2	1	
すきな	一年 <small>いちねん</small> かんの	おはなしを	おもい出 <small>だ</small> して	はっけんしたよ	ことばあそびうたを	こんな	ぶんを	
おはなしは	おもいでブック	かこう	かこう	つくろう	つくろう	こと	つくろう	
なにな						したよ		
30	26	22	14	10	8	6	2	

もくじ

れんしゅう

↘
↘



うみ



はをつかってえにあうぶんをかきましょう。

れんしゅう

○
○
○

ぶんの おわりには、
○(まる)をかきます。

④

③

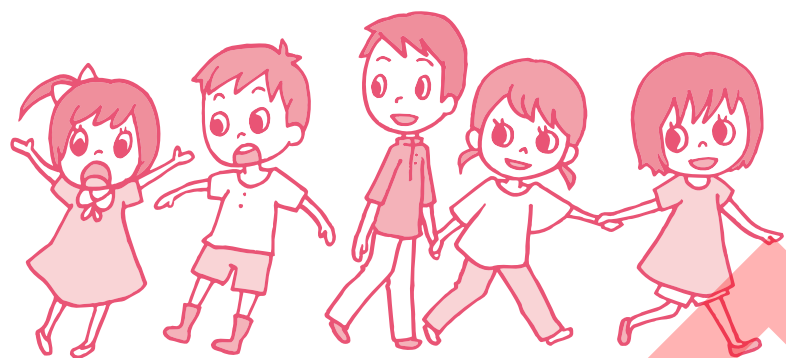
②

①



きょうかしょ 37ページのえをみてぶんをつくりましょう。

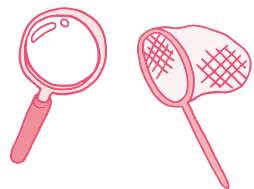
ことはあそびうたを つくろう



なまえ

みなさんの まわり
には ことばが たく
さん あります。
いろいろな ものの
おとや ようすを あ
らわす ことばを あ
つめて、じぶんの
「ことはあそびうた」
をつくりましょう。

はっけん したよ



おもった
こと



さわって
みよう



においを
かごう



よく
きこう



よく
見よう

・きこえる

音おと

・さわった

かんじ

・うごき

・大きさおお

・かたち

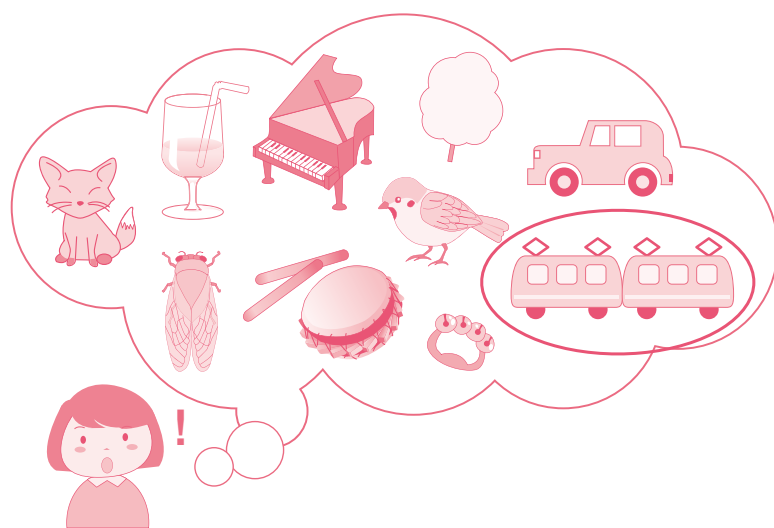
・いろ

みまわりの
花はなや
木き、
生きもの
などの
ようすを
文ぶんしように
かいて、
ともだちに
つたえましよう。

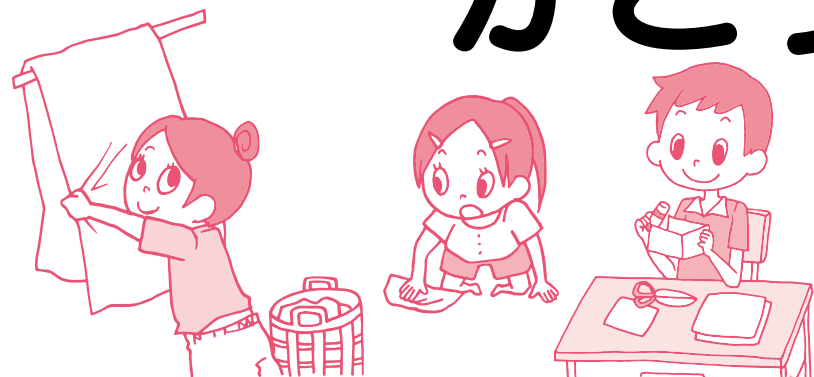
（れい）でんしゃ ↓ がたごと

↓ ↓ ↓ ↓ ↓

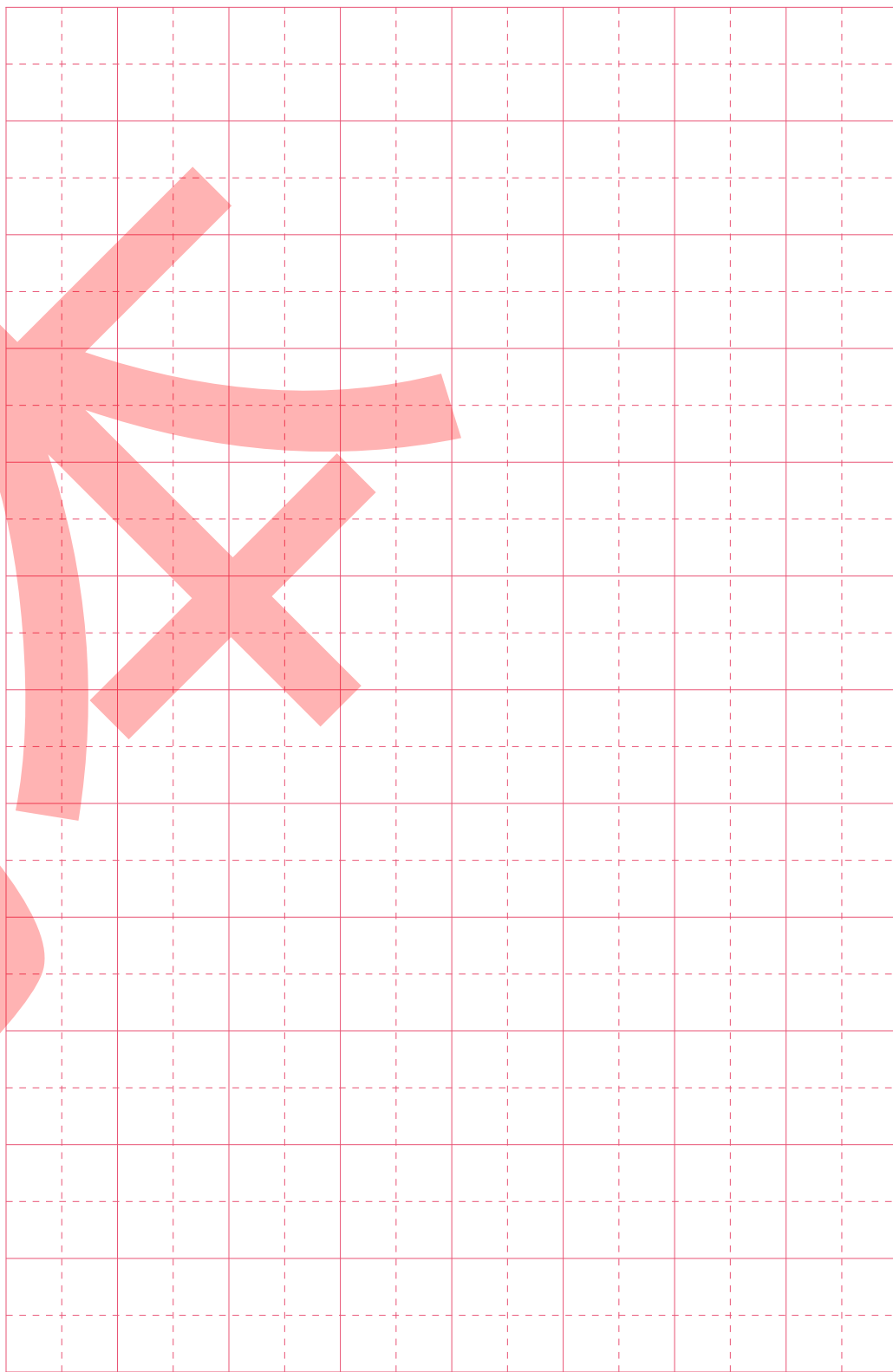
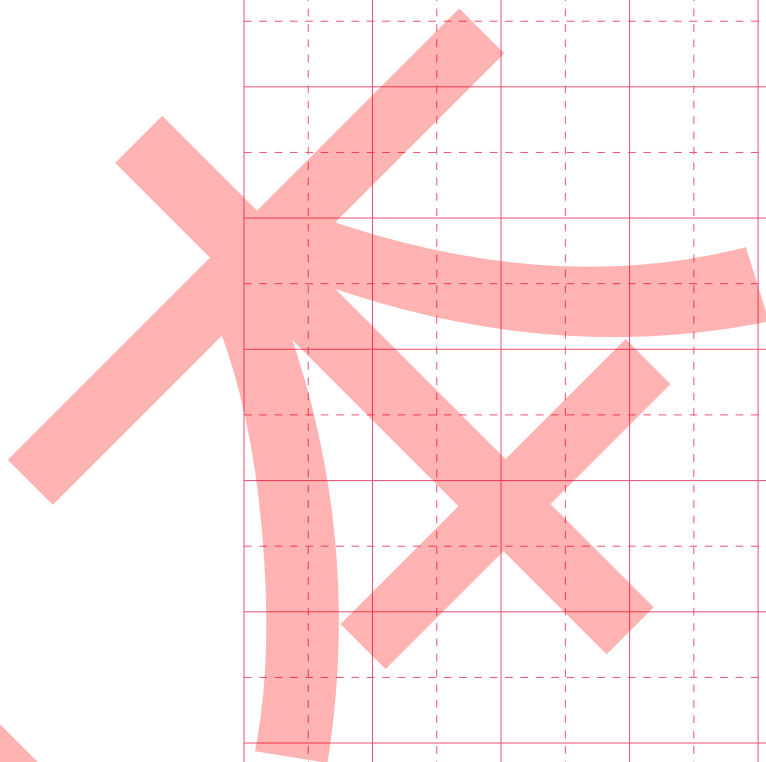
ことばあつめを
しよう



だ おもい出して かこう



学校がっこうや いえで したこ
 とを、ともだちや 先生せんせいに
 つたえる 文しょうを かき
 ましょう。
 じゅんじよを あらわす
 ことばを つかって、した
 ことを じゅんに かきま
 しょう。



を	れ	に	ぎ	に		ン			
つ	か	は	に	し	は	ド	ぼ		
く	ら	っ	、	て	じ	イ	く		サ
り	、	て	み	、	め	ツ	は		ン
ま	赤 ^{あか}	、	ど	パ	に	チ	、		ド
し	い	レ	リ	ン	、	を	ず		イ
た	ろ	タ	い	を	か	つ	こ		ツ
。	の	ス	ろ	つ	み	く	う		チ
も	ね	に	の	く	ね	り	の	も	を
も	ん	し	シ	り	ん	ま	じ	り	つ
い	土	ま	ー	ま	土 ^ど	し	か	け	く
ろ	で	し	ル	し	を	た	ん	けん	つ
の	ト	た	を	た	た	。	に	ん	た
お	マ	。	パ	。	い		、	た	
り	ト	そ	ン	つ	ら		サ		

・した ことを
じゆんに かく。

・どんな こと
を したの か
かく。

できごとを
かく ときに
だいじな こ
と

学校で した こと

☆ どのような ことについて かきたいですか。
メモを かきましょう。

いえで した こと



げんこうようしのつかいかた

① だいは 上^{うえ}を 二^{ふた}ます くらい あけます。

③ かきはじめは 一^{ひと}ます あけます。

⑤ はなした ことばを か ぎようを か えて かぎ (「」) を つけます。

は	と	「	か	ん	し	に	○		○
し	い	さ	ず	が	た	、	ぼ		○
っ	っ	あ	や	お	。	お	く		お
て	た	、	く	に	ま	に	は	も	に
に	の	は	ん	に	ず	ご	、	り	ご
げ	で	じ	が	な	、	っ	ひ	○	っ
ま	、	め	、	り	か	こ	る	け	こ
し	ぼ	よ		ま	ず	を	や	ん	
た	く	う		し	や	し	す	た	
。	は	」	。	た	く	ま	み	○	

② 名まえは 下^{した}を 一^{ひと}ます あけます。 みようじと 名まえの あ いだを 一^{ひと}ます あけます。

④ てん(、)や まる(。)は 一ばん 上に こないように、 一ばん 下の 入れ ます。



げんこうようしのつかいかた

☆ かこうと きめた ことを じゅんじよに 気を つ けて かきましよう。

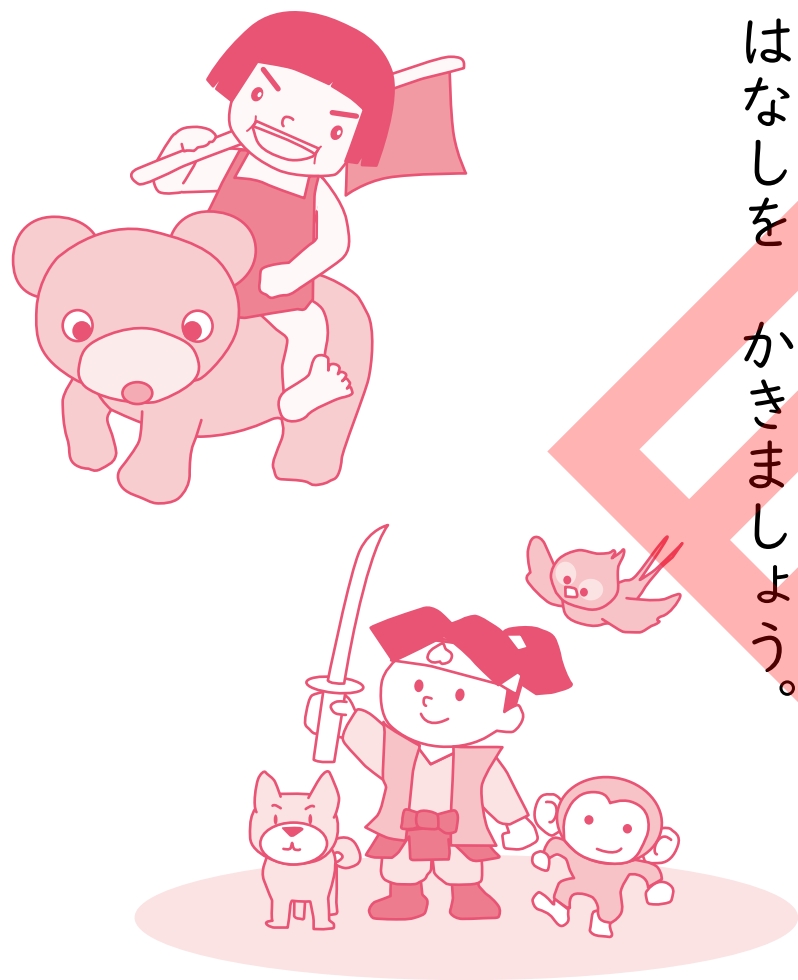
○ どんな ことを したのか かきましよう。

○ した ことを じゅんに かきましよう。

① はじめに、

② つぎに、

おはなしを かこう



おはなしに 出^でて くる 人^{じん}ぶつ
を かんがえて、じぶんだけの お
はなしを かきましよう。

☆ ここに かいた ことを げんこうようしに
くわしく かきましよう。



○ その ときの 気もちを かきましよう。

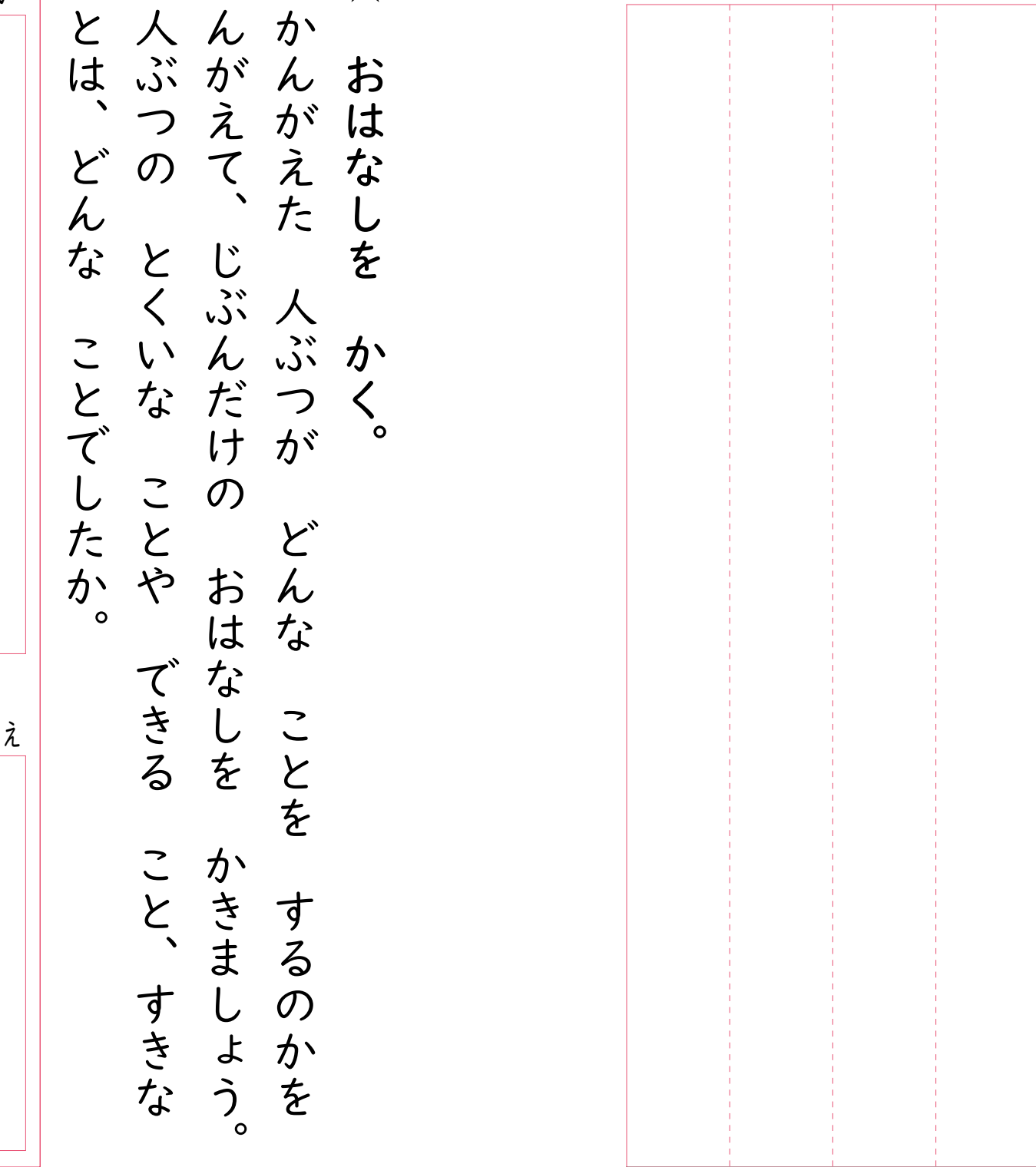
③ それから、

④ さいごい、

☆ おはなしに 出て くる 人ぶつを かんがえましょう。

○ 人ぶつの 名まえ

○ どんな 人ぶつか



☆ おはなしを かく。

かんがえた 人ぶつが **どんな** ことを **する**のかを
かんがえて、じぶんだけの **おはなし**を **かき**ましょう。
人ぶつの **とくい**な **こと**や **できる** **こと**、**すきな**
ことは、**どんな** **こと**でしたか。

だい

名まえ

おかしむかし、ある **ところ**に、おじいさんと おばあさんが
すんで いました。

ある 日、おばあさんは、川かわで

を ひ

ろいました。その

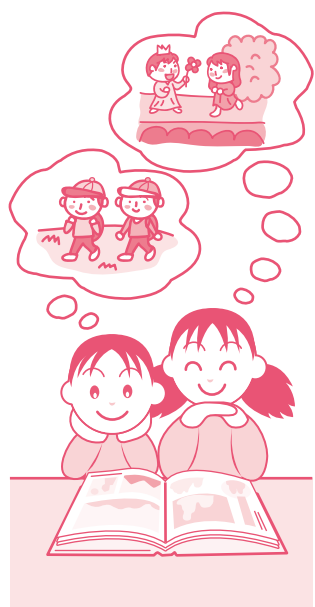
から 赤んぼうが 生う

まれました。ふたりは、

と 名まえを つ

けて、そだてる **こと**に **しま**した。

一年かんの おもいでブック



える 文ししょうを かきましよう。

いえの 人ひとに できごとを つた

ししょう。

こっている できごとを えらびま

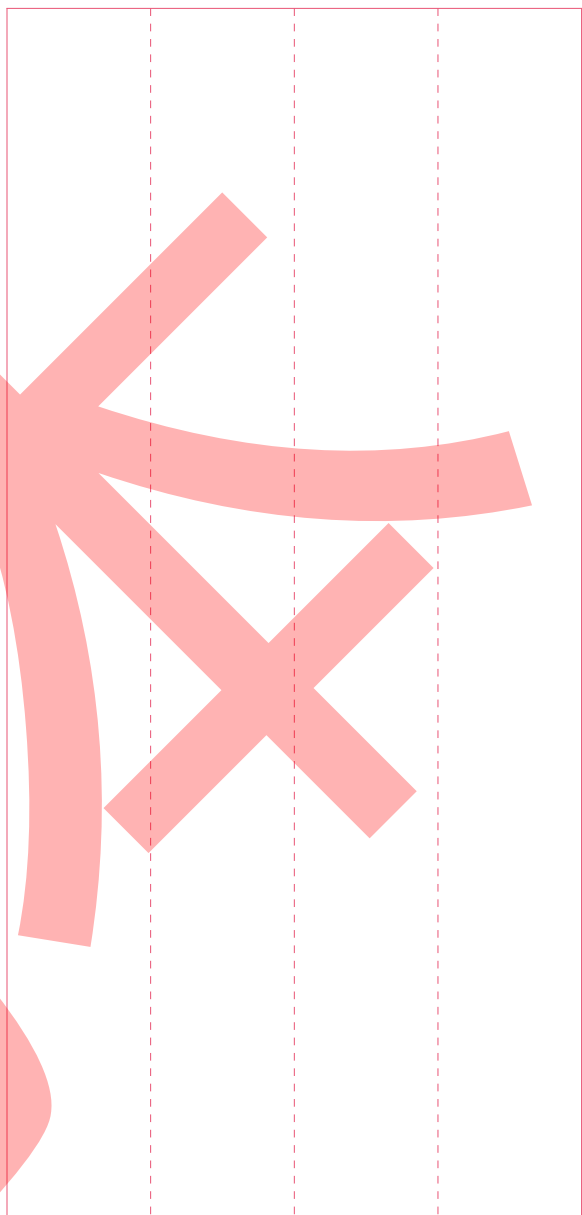
よんで、いちばん ころに の

一年いちねんかんに かいた 文ししょうを

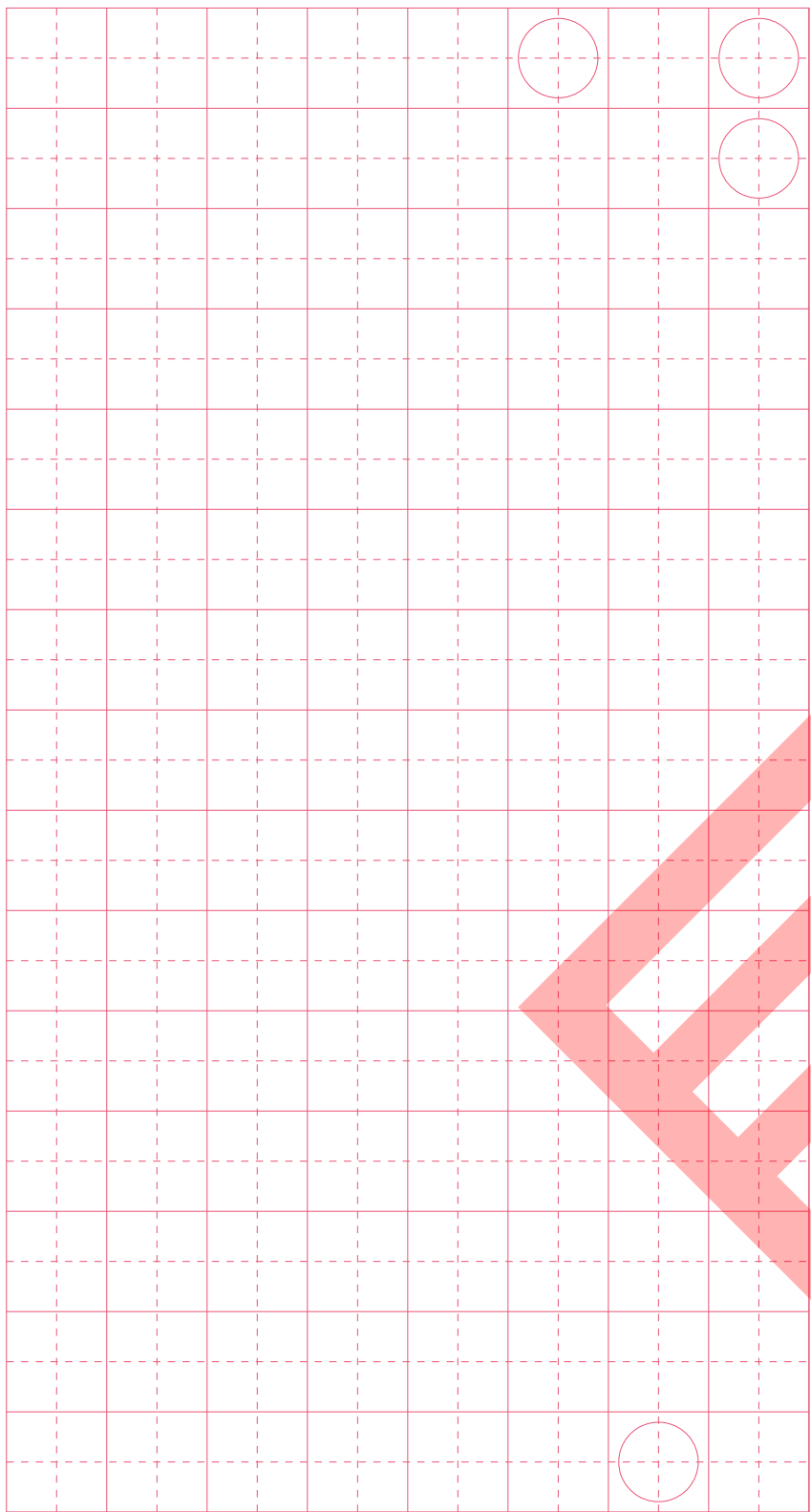
☆ おはなしを よみあいましよう。

☆ いえの 人につたえる できごとを えらびましょう。

☆ もっとくわしく かける ところを さがしてみましよう。



☆ 一年かんを ふりかえって、いちばん ころに のこつ ている ことを 文しように かきましよう。

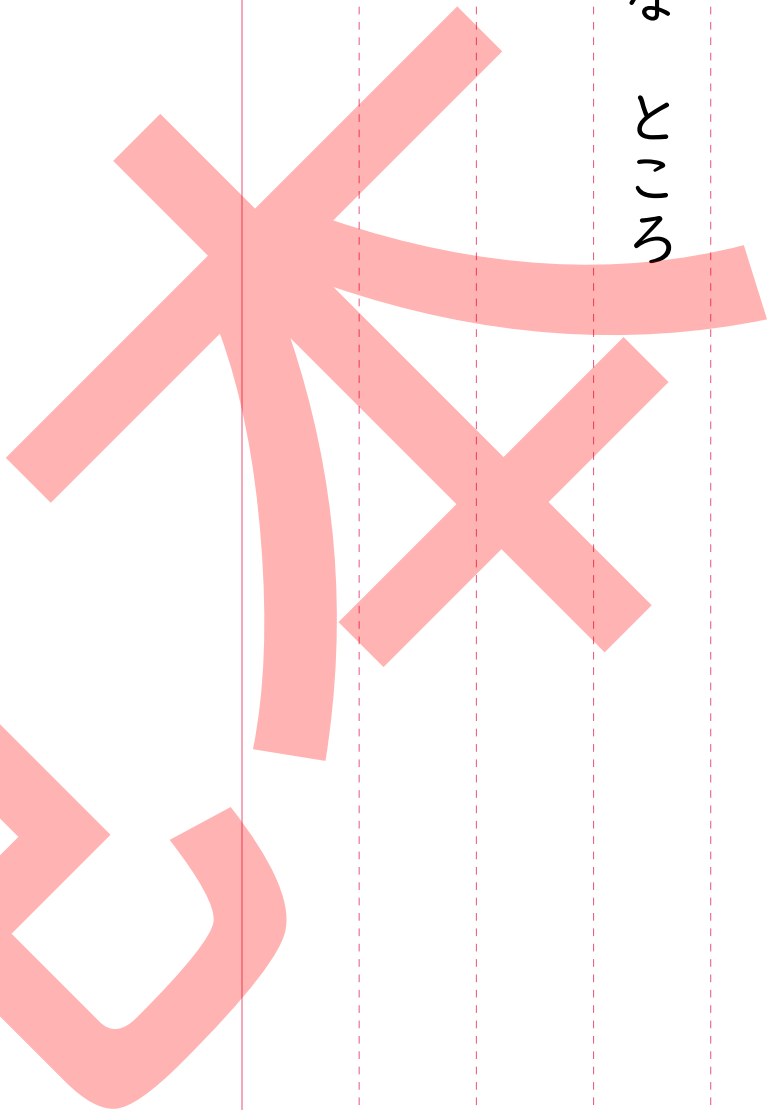


☆ 「しょうかいカード」をかきましよう。

おはなしの 名まえ

すきな 人ぶつ

すきな ところ



☆ よんだ おはなしの すきな 人ぶつと、その 人ぶつが した ことを 一つ かきましよう。

れい 人ぶつ

チロ



した こと

○木の上で おばあちゃんに 「ありがとう。」
と さげびました。

すきな 人ぶつと、その 人ぶつが した こと

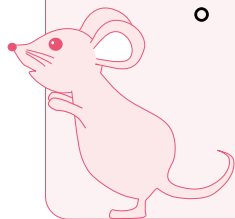
人ぶつ

した こと



☆ こえに 出して よんだ ときに、おもしろかった
ところを かきましよう。

れい ○そして、「ありがとう。」が きえるのを まって、
もう「ど、こんどは ゆっくり いいました。
「あ、り、が、と、う。」



こえに 出して よむと おもしろかった ところ

☆ おはなしを よんで かんがえた ことを かきま
しよう。

れい ○チロが、木の上で おばあちゃんに「ありが
とう。」と さげんだ ところが おもしろかったです。
○おばあちゃんに こえが とどいて びっくりしました。



おはなしを よんで かんがえた こと

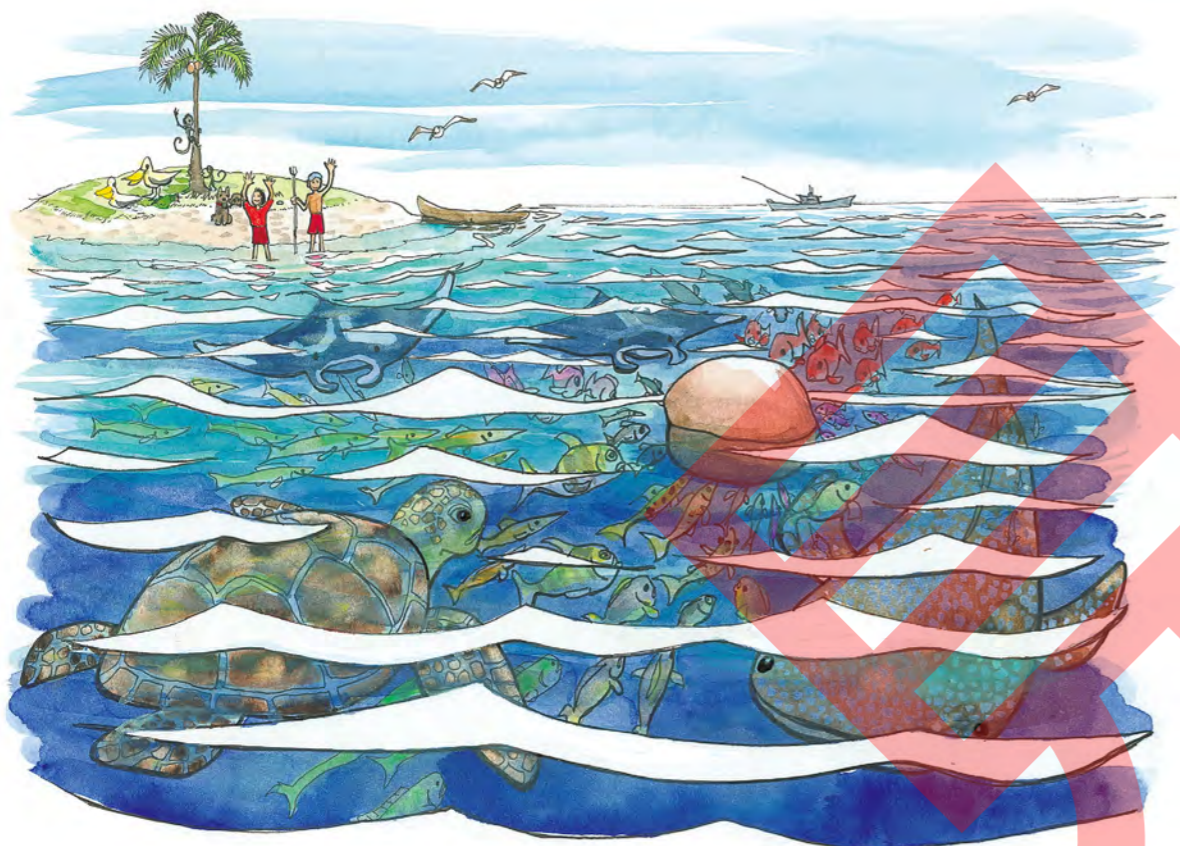
令和
6
年度版

さくぶんのとも 1

～かくこと だいすき～

教

指導展開例あり



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

1	ね ん		く み	な ま え	
---	--------	--	--------	-------------	--

先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
 - ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和6年度版 作文の友 1年

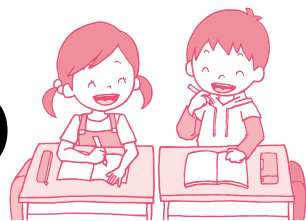
編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819

印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

ぶんをつくらう



○目標
○関連

主語と述語の関係を考え、
上「ぶんをつくらう」

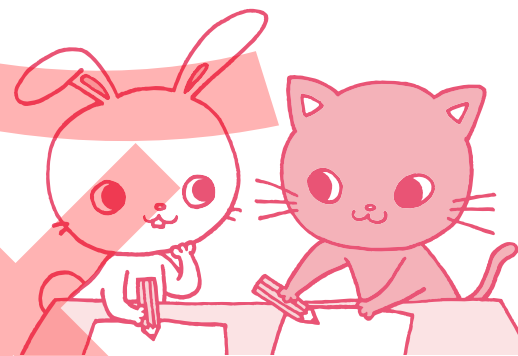
「○○が…する。」の文型で意味が明確な文を書くことができる。

さくぶんのとも

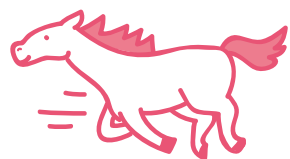
～かくこと

だいすき～

1



「が」を かこう



う
ま
が
は
し
る

ひ
と
が
わ
ら
う

が が が

※濁点の大きさに気をつけて書くように伝える。

もくじ

〈教科書との関連〉

8	7	6	5	4	3	2	1
すきな おはなしは なにかな…30	一年かんの おもいでブック…26	おはなしを かこう…22	おもい出して かこう…14	はっけんしたよ…10	ことばあそびうたを つくらう…8	こんな こと したよ…6	ぶんを つくらう…2
下「おとうとねずみチロ」 下「すきな おはなしは なにかな」 指導展開例あり	下「一年かんの おもいでブック」	下「おはなしを かこう」	下「おもい出して かこう」	下「はっけんしたよ」	上「ことばあそびうたを つくらう」	上「こんな こと したよ」	上「ぶんを つくらう」 上「(を)をつかおう」

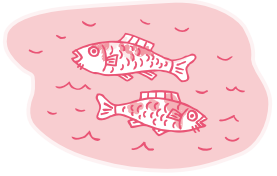
きょうかしよ 37 ページの えをみて ぶんを つくりましょう。

① とりがとぶ。

② くまがねる。

③ はながさく。

④ さかなが およぐ。

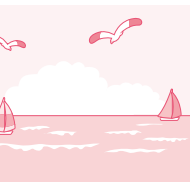


など

れんしゅう
 ぶんの おわりには、
 (まる)を かきます。

○目標 助詞「は」の使い方を理解し、一文の意味が明確になるように文を書くことができる。
 ○関連 「上」(は)をつかおう

はをつかって えにあう ぶんを かきましょう。



うみ

は

例 あおい／ひろい／つめたい



うきわ

は

例 まるい／かるい



かきごおり

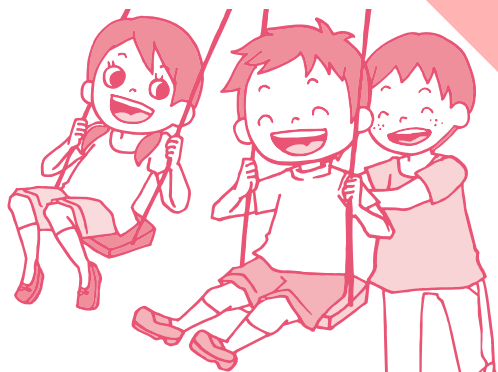
は

例 あまい／つめたい／おいしい

れんしゅう

・話すときの区切りとして軽く触れる。

こんな こと したよ



こんな こと したよ

がっこうで いろんな ことを しま
したか。 いえの ひとに しらせたい
ことを かきましよう。

○目標 伝えたい内容が明確になるように、語と語や文と文の続き方に気をつけて文章を書くことができる。
○関連 上「こんな こと したよ」

○目標 助詞「を」「へ」の使い方を理解し、一文の意味が明確になるように文を書くことができる。
○関連 上「を」「へ」をつかおう

を つかって えに あう ぶんを かきましよう。



か お

を

ふく



お か し

を

たべる

へ を つかって えに あう ぶんを かきましよう。



い え

へ

かえる



え き

へ

いく

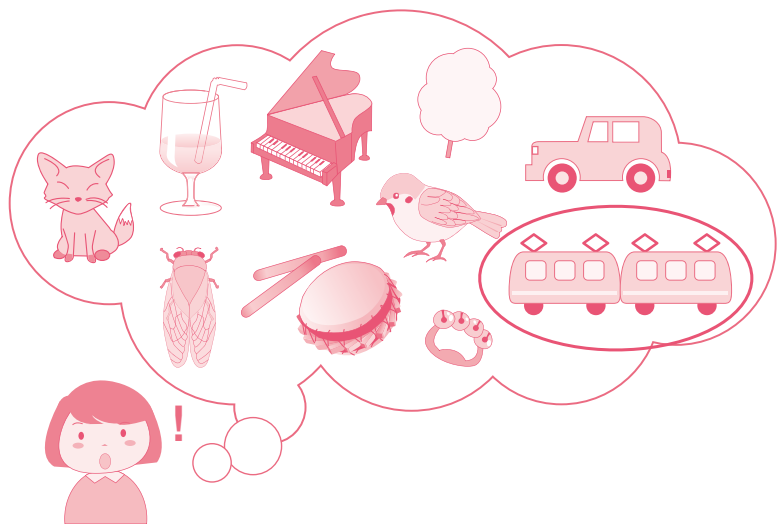
・解答例に限らず、絵に合ったいろいろな文を認める。

ことばあつめをしよう

(れい)でんしゃ ↓ がたごと

↓	↓	↓	↓	↓
---	---	---	---	---

・教科書(上)P96・P97の「たべもの」を読んでから、自分の「言葉遊び歌」を作らせる。

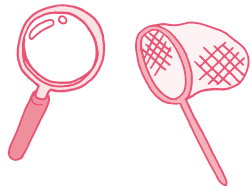


○目標 観察した動植物の様子を伝えるために必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして書くことができる。

○関連 下「はっけんしたよ」

みまわりの花や木、生きもの
 などのようすを文(ぶん)のようにかいて、
 ともだちにたえましよう。

はっけんしたよ



- よく見(み)よう
- よくきこう
- においをかごう
- さわってみよう
- おもったこと

- いろ
- かたち
- 大きさ
- うごき
- さわったかんじ
- きこえる音(おと)

を	れ	に	ぎ	に		ン			
つ	か	は	に	し	は	ド	ぼ		
く	ら	っ	、	て	じ	イ	く		サ
り	、	て	み	、	め	ツ	は		ン
ま	赤 ^{あか}	、	ど	パ	に	チ	、		ド
し	い	レ	リ	ン	、	を	ず		イ
た	ろ	タ	い	を	か	つ	こ		ツ
。	の	ス	ろ	つ	み	く	う		チ
も	ね	に	の	く	ね	り	の	も	を
も	ん	し	シ	り	ん	ま	じ	り	つ
い	土	ま	ー	ま	土 ^ど	し	か	け	く
ろ	で	し	ル	し	を	た	ん	けん	つ
の	ト	た	を	た	た	。	に	ん	た
お	マ	。	パ	。	い		、	た	
り	ト	そ	ン	つ	ら		サ		

・した ことを
じゆんに かく。

・どんな こと
をしたのか
かく。

できごとを
かく ときに
だいじな こと

学校で した こと

☆ どのような ことについて かきたいですか。
メモを かきましょう。

(例) 生かつかのじかん
に、さつまいもを
ほった。

いえで した こと

(例) おふろそうじのお
手つだいをした。



た	ら		と	「	と	サ	い	が
。	え	ぼ	い	お	な	ン	ご	み
	て	く	い	い	り	ド	に	で
	、	は	ま	し	の	イ	、	、
	う	、	し	そ	せ	ッ	ト	ハ
	れ	お	た	う	き	チ	マ	ム
	し	い	。	だ	の	が	ト	を
	い	し		ね	ゆ	で	と	つ
	な	そ		」	み	き	ハ	く
	と	う			さ	あ	ム	り
	お	と			ん	が	を	ま
	も	い			が	り	は	し
	い	っ			、	ま	さ	た
	ま	て				し	ん	。
	し	も				た	で	。
							で	さ

・劇や本などの題名は、「」をつけて書かせる。
 ・「」は、一ます目に書かないようにさせる。

じゅんじよを
 あらわす
 ことば
 ・はじめに
 ・つぎに
 ・それから
 ・さいごに

・そのときの
 気もちをか
 く。

はなした ことばの かきかた

はなした ことばを かく ときには、かぎ
 つけましょう。

れい 「おいしそうですね。」

れいを 見て、れんしゅうしましょう。

「おいしそうですね。」
 「おいしそうですね。」

げんこうようしのつかいかた



げんこうようしのつかいかた

① だいは 上^{うえ}を 二^{ふた}ます くらい あけます。

③ かきはじめは 一^{ひと}ます あけます。

⑤ はなした ことばを かぐ ときには、ぎようを かえて かぎ(「」)をつけます。

は	と	「	か	ん	し	に	○		○
し	い	さ	ず	が	た	、	ぼ		○
っ	っ	あ	や	お	。	お	く		お
て	た	、	く	に	ま	に	は	も	に
に	の	は	ん	に	ず	ご	、	り	ご
げ	で	じ	が	な	、	っ	ひ	○	っ
ま	、	め	、	り	か	こ	る	け	こ
し	ぼ	よ		ま	ず	を	や	ん	
た	く	う		し	や	し	す	た	
。	は	」	。	た	く	ま	み	○	

② 名まえは 下^{した}を 一^{ひと}ます あけます。 みようじと 名まえの あいだを 一^{ひと}ます あけます。

④ てん(、)や まる(。)は 一ばん 上に こないように、 一ばん 下の 入れます。

・ P15のメモをもとに、P16・P17の例を参考にしながら書かせる。

☆ かこうと きめた ことを じゅんじよに 気を つけて かきましょう。

○ どんな ことを したのか かきましょう。

○ した ことを じゅんに かきましょう。

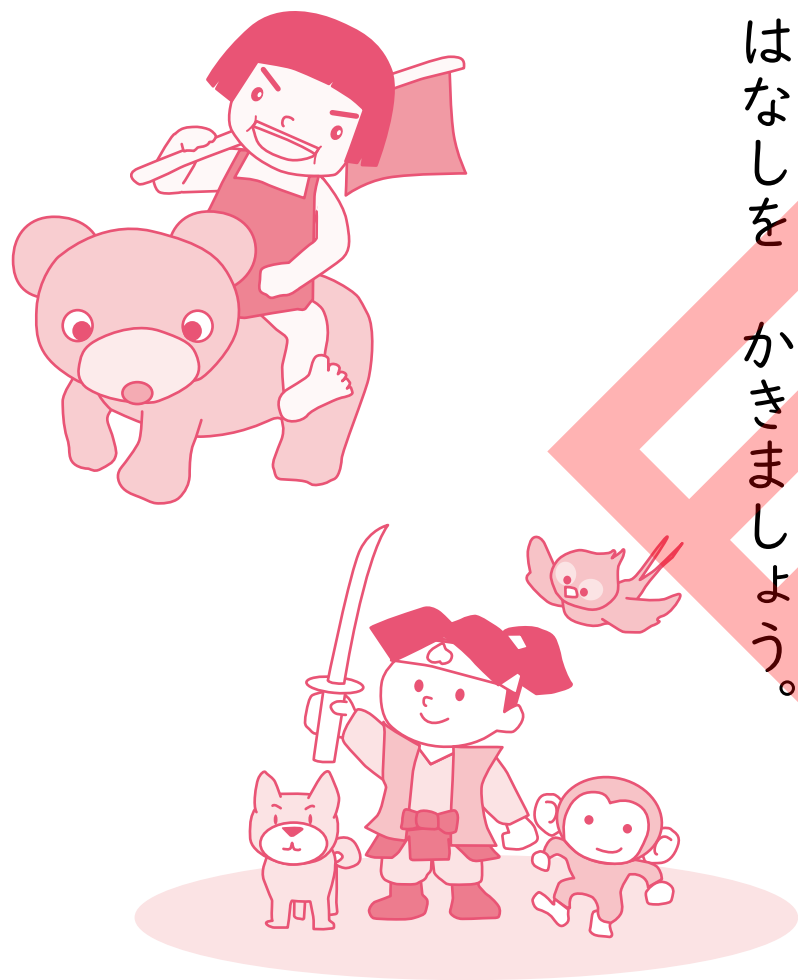
① はじめに、

② つぎに、

おはなしをかこう

○目標
○関連

人物とその人物がどんなことをするかを考えて簡単な物語を書くことができる。
下「おはなしをかこう」



おはなしに出てくる人^{じん}ぶつ
をかんがえて、じぶんだけのお
はなしをかきましよう。

☆ここに書いたことをげんこうようしに
くわしくかきましよう。
・声に出して読み返し、間違っているところを書き直させる。



○そのときの気もちをかきましよう。

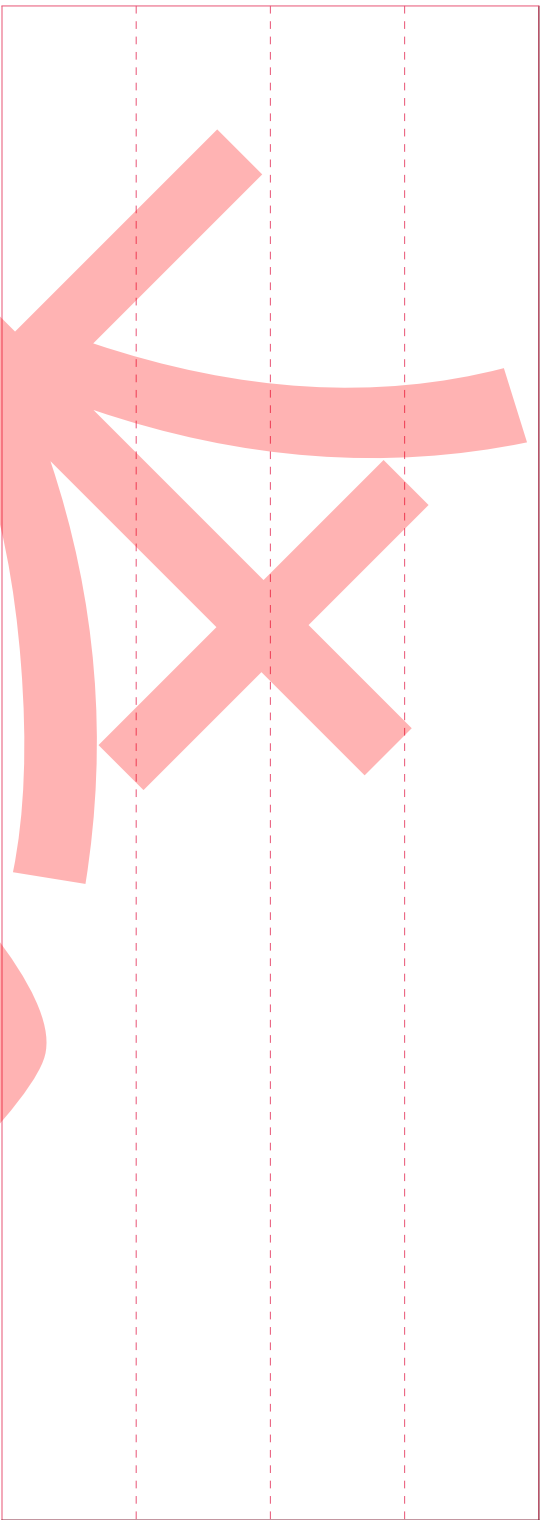
③それから、

④さいごに、

☆ おはなしに 出て くる 人ぶつを かんがえましょう。

○ 人ぶつの 名まえ

○ どんな 人ぶつか



☆ おはなしを かく。

かんがえた 人ぶつが いろんな ことを するのかを
かんがえて、じぶんだけの おはなしを かきましよう。
人ぶつの とくいな ことや できる こと、すきな
ことは、どんな ことでしたか。

だい

名まえ

おかしむかし、ある ところに、おじいさんと おばあさんが
すんで いました。

ある 日、おばあさんは、川^{かわ}で

を ひ

ろいました。その

から 赤んぼうが 生^う

まれました。ふたりは、

と 名まえをつ

けて、そだてる ことに しました。

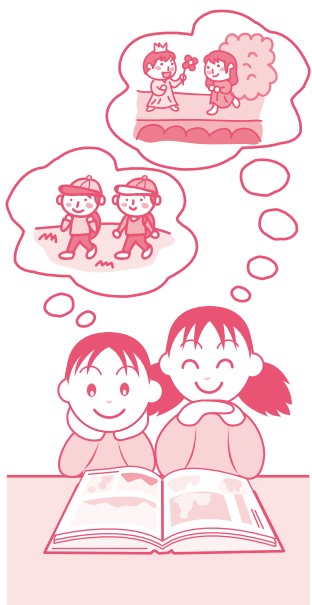
一年かんの おもいでブック

○目標
○関連

これまでに書いた文章から一つ選んで書き直し、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。
下「一年かんの おもいでブック」

☆ おはなしを
よみあいましょう。

いちねん
一年かんに かいだ 文しょうを
よんで、いちばん ころに の
こっている できごとを えらびま
しょう。
いえの 人^{ひと}に できごとを つた
える 文しょうを かきましょう。



☆ 「しょうかいカード」をかきましよう。

おはなしの 名まえ

すきな 人ぶつ

すきな ところ

・選んだ本を読み返しながら、確認して書かせる。
・読書感想文の構想として活用してもよい。

☆ よんだ おはなしの すきな 人ぶつと、その 人ぶつが した ことを 一つ かきましよう。

れい 人ぶつ

チロ

した こと

○木の上で おばあちゃんに 「ありがとう。」
と さげびました。



すきな 人ぶつと、その 人ぶつが した こと

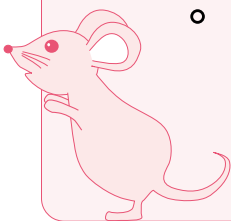
人ぶつ

した こと



☆ こえに 出して よんだ ときに、おもしろかった
ところを かきましよう。

れい ○そして、「ありがとう。」が きえるのを まって、
もう「ど、こんどは ゆっくり いいました。
「あ、り、が、と、う。」



こえに 出して よむと おもしろかった ところ

☆ おはなしを よんで かんがえた ことを かきま
しよう。

れい ○チロが、木の上で おばあちゃんに「ありが
とう。」と さげんだ ところが おもしろかったです。
○おばあちゃんに こえが とどいて びっくりしました。



おはなしを よんで かんがえた こと

ぶんを つくろう

《教科書との関連》

上「ぶんを つくろう」④を つかおう」「⑤を つかおう」

一 学習目標

- 1 主語と述語の関係を考え、「○○が…する。」の文型で意味が明確な文を書くことができる。
- 2 助詞「は」「を」「へ」の使い方を理解し、一文の意味が明確になるように文を書くことができる。

二 指導事項

- 1 助詞の「が」を使って、主語と述語の整った文を作らせる。
- 2 句点、読点の正しい書き方、使い方が分かるようにさせる。
- 3 助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使って文を作らせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>「ぶんを つくろう」</p> <p>① 主語や述語を、絵や写真を見て考え、文を作る。</p>	<p>①(1) P2の絵をもとに、述語を考え、文を作る。</p> <p>(2) 教科書(上)P37の絵をもとに、助詞の「が」を使って主語と述語の整った文を作る。</p> <p>(3) 文の終わりには「。」(句点)を書くことを確認し、位置、大きさ、筆順に気をつけて練習する。</p>	<p>①○教科書(上)P36で、助詞の「が」を使った文の構成を確認した後、「が」の下にくる言葉を、絵を見て書かせる。</p> <p>○教科書(上)P37の絵を見て、どんな動物が何をしているのかを発表させてから書かせる。</p> <p>○全ての文末に句点があることに気づかせ、句点を書くことで文が終わるということを意識させる。</p>
<p>② 同じ音を表す字の使い分けに気をつけながら、絵を見て「は」を使った文や、「を」や「へ」を使った文を作る。</p>	<p>②(1) P4の絵をもとに、助詞の「は」を使って主語と述語の整った文を作る。</p> <p>(2) 教科書(上)P45の文をもとに、「、」(読点)を書くことを確認し、位置、大きさ、形に注意して練習する。</p> <p>(3) P5の絵をもとに、助詞の「を」や「へ」を使って目的語と述語の整った文を作る。</p>	<p>②○教科書(上)P45で、「は」と「わ」の使い分けを確認した後、助詞の「は」を使った文を、絵を見て書かせる。</p> <p>○教科書(上)P54・55で、助詞の「を」や「へ」を使った文の作り方を確認した後、「を」と「お」や「へ」と「え」の使い分けに気をつけさせながら、助詞の「を」や「へ」を使った文を、絵を見て書かせる。</p> <p>○文末は、言い切りの形で書かせる。</p>

こんなことしたよ

《教科書との関連》

上「こんなことしたよ」



えにっきをかこう

一 学習目標

1 伝えたい内容が明確になるように、語と語や文と文の続き方に気をつけて文章を書くことができる。

二 指導事項

- 1 学校での出来事を詳しく思い出し、主述の照応や句読点の表記などに注意しながら文章に書かせる。
- 2 出来事の様子が読み手に伝わるように文章を書かせる。
- 3 書いた文章を友達と交換して読み合い、感想を伝え合わせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 学校での出来事を思い出し、書くことを決める。 2 文章を書く。 3 友達や家の人に読んでもらう。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校での遊び、学習などの中から家の人に知らせたいことを決める。 2 教科書(上)P79・80を参考にして、文章を書く。 3 (1) 友達と交換して書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う。 (2) 書いたものを家に持ち帰り、家の人に読んでもらう。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 遊びのこと、学習のこと、生活の中の出来事などを自由に思い出させ、書かせる。 2 知らせたい相手を思い浮かべ、伝えたい出来事を分かりやすく書こうという意識をもたせる。 書き出しは一字下げて書かせる。句読点や助詞について、既習事項を確認してから書かせる。 自分が書いた文を読み返し、間違えたところを書き直させる。

いじばあそびうたをつくらう

《教科書との関連》

上「ことはあそびうたをつくらう」

一 学習目標

1 身の回りのものから書くものを見つけ、それに関わる音や様子を表す言葉を集めたり確かめたりして言葉遊び歌を作ることができる。

二 指導事項

1 教科書「たべもの」を音読して楽しみ、音や様子を表す言葉の部分に新たなことを考えて、自分の「ことはあそびうた」を作らせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 「たべもの」の詩を読む。 2 いろいろなものの音や様子を表す言葉を集める。 3 言葉遊び歌を作る。 4 作った言葉遊び歌を音読する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書(上)P96・97「たべもの」の詩を音読する。 2 身の回りから、いろいろなものの音や様子を表す言葉を集める。 3 集めた言葉を組み合わせ、言葉遊び歌を作る。 4 作った言葉遊び歌を音読して、感想を伝え合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 詩を音読し、音や様子を表す言葉はいろいろあることに気づかせる。 2 食べ物だけでなく、乗り物、動物、楽器などの音や様子を表す言葉を集めさせる。 3 同じ種類の音や様子を表す言葉(食べ物、乗り物、動物、楽器など)を組み合わせ、自分の言葉遊び歌を作らせる。 4 お互いの言葉遊び歌を聞き合い、音や様子を表す言葉のおもしろさに気づかせる。

はっけんしたよ

《教科書との関連》
下「はっけんしたよ」

三 展開例

一 学習目標

1 観察した動植物の様子を伝えるために必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして書くことができる。

二 指導事項

- 1 題材の選び方を学ばせる。
- 2 見た日や場所、見たもの、気づいたこと、思ったことを、順序よく書かせる。
- 3 見つけたものをよく思い出して、生き物の様子や動きを分かりやすく知らせるように書かせる。

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 身の回りにいる生き物を見つけ、書きたいことを考える。</p>	<p>① 身近な動植物の様子を友達に伝えるために、よく見てみたい動植物を選ぶ。 ・虫 ・小動物（自分の家のペット・学校の飼育小屋の小動物・鳥など） ・植物（花や樹木など）</p>	<p>① 季節をとらえ、身の回りの自然や生活の中から、題材を探させる。 ○生き物というとらえ方から、虫や小動物、植物へと、題材に広がりをもたせる。</p>
<p>② 「はっけんメモ」の書き方を知る。</p>	<p>② ① 「はっけんメモ」の書き方を知る。 (2) 見つけたものの名前、見た日、場所、気づいたことなどをP11の「はっけんメモ」にまとめる。</p>	<p>② 教科書(下)P39の「はっけんメモ」の例を読み、書く事柄(色、形、大きさ、動き、触った感じ、聞こえる音)を理解させる。</p>
<p>③ メモをもとに文章を書く。</p>	<p>③ ① 教科書(下)P40・41を読み、書き方の参考にする。 (2) 自分の「はっけんメモ」をもとにして、文章を書く。 (3) 自分の文章を読み返して、正しい書き方になっていないところを直す。</p>	<p>③ 教科書(下)P40・41を読み、文章の構成を確認した後、「はっけんメモ」にまとめた事柄を順に書かせる。 ○文末を「でした」「ました」の敬体で書かせる。 ○メモをつないだだけの文章ではなく、言葉を付け加えて豊かな文章になるようにさせる。 ○何について書いたか分かる題を書かせる。 ○よく読み直しをさせ、間違っているところは、書き直させる。</p>
<p>④ 見つけたことを文章をもとに発表する。</p>	<p>④ 書いた文章をもとにして、自分の見つけたことを友達と発表し合う。</p>	<p>④ 友達の発表をよく聞き、お互いに認め合う気持ちをもたせる。</p>

おもい出して かこう

《教科書との関連》
下「おもい出して かこう」

一 学習目標

1 経験した順序に沿って簡単な構成を考え、語と語や文と文との続き方に注意しながら書くことができる。

二 指導事項

- 1 「はじめ」「したこと（じゅんじょにそって）」「そのときの気もち」の構成で順序よく書かせる。
- 2 そのときの様子や気持ちを、読み手に分かりやすく伝えられるように書かせる。
- 3 順序を表す言葉を使って書かせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 家や学校でしたことについて、書いたことを考える。</p>	<p>①(1) 家や学校でしたこと、様子や気持ちが詳しく書けそうなこと、みんなに知らせたいことを考え、P 15に書く。</p> <p>(2) P 16・17を読む。</p> <p>・「どんなことをしたのか」「したこと（じゅんじょにそって）」「そのときの気もち」の書き方を知る。</p>	<p>① 家や学校でしたことを思い出させる。</p> <p>○ P 16・17の作品の構成を理解させる。</p> <p>○ 「どんなことをしたのか」「したこと（じゅんじょにそって）」「そのときの気もち」の内容を確認させる。</p>
<p>② 構成を考える。</p>	<p>② P 20・21に構成メモを書く。</p> <p>・「どんなことをしたのか」「したこと（じゅんじょにそって）」「そのときの気もち」のメモを書く。</p>	<p>② ○「メモ」にまとめた事柄を「どんなことをしたのか」「したこと（じゅんじょにそって）」「そのときの気もち」の順に書かせる。</p> <p>○ P 16・17を参考にしながら書かせる。</p> <p>○ 「したこと（じゅんじょにそって）」「自分のしたことが順序に沿っているか確かめさせる。</p>
<p>③ 原稿用紙に文章を書く。</p>	<p>③(1) 会話文や原稿用紙の書き方を確認する。</p> <p>(2) P 20・21の構成メモをもとに、文章を書く。</p> <p>(3) 自分の文章を読み返して、正しい書き方になっていないところを直す。</p>	<p>③ ○ P 19やP 16・17を活用し、原稿用紙の書き方を理解させる。</p> <p>○ 「したこと（じゅんじょにそって）」を書く文章の目安を示すなどして会話文や気持ちを表す言葉を加えて豊かな文章になるようにさせる。</p> <p>○ よく読み直しをさせ、間違っているところは、書き直させる。</p>
<p>④ 発表会をする。</p>	<p>④ 自分の書いた文章を発表する。</p>	<p>④ ○友達と作文を聞き合い、お互いに認め合う気持ちをもたせる。</p>

おはなしをかこう

《教科書との関連》

下「おはなしをかこう」

一 学習目標

1 人物とその人物がどんなことをするかを考えて簡単な物語を書くことができる。

二 指導事項

1 教科書の例を参考にして、中心となる人物を考え、その人物がどんなことが得意か、どんなことが好きかを想像し、メモに書かせる。
2 メモをもとに、自分だけの物語を創作し、書き上がった作品を声に出して読ませる。
3 できあがった物語を友達と読み合い、物語のよさを見つけて伝え合わせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 「ももたろう」のお話を聞き、内容を確認する。</p> <p>② 誰がどんなことをするお話を作るか考える。</p> <p>③ お話を書く。</p> <p>④ お話を読み合う。</p>	<p>① 「ももたろう」のお話では、誰がどんなことをしたのか確認する。</p> <p>② 教科書(下)P95の例を見て、誰がどんなことをするお話にするか考え、P23に書く。</p> <p>③ ① 教科書(下)P96・97の「かばちやたろう」のお話を読む。 ② メモをもとにして、お話を書く。</p> <p>④ 作ったお話を友達と読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>① ○「ももたろう」の読み聞かせを聞き、誰がどんなことをする話だったか確認させる。</p> <p>② ○教科書の例を参考にして、自分のお話の主人公と、どんなことが得意か、どんなことが好きかを考えさせる。</p> <p>③ ○メモをもとにして、P24・25にお話を書かせる。 ○大きくなったらどうするかは、教科書の例のように、詳しく書かせる。</p> <p>④ ○作ったお話を互いに読み合い、おもしろいところやいいなと思うところを伝え合わせる。</p>

一年かんの おもいでブック

《教科書との関連》

下「一年かんの おもいでブック」

一 学習目標

1 これまでに書いた文章から一つ選んで書き直し、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけていることができる。

二 指導事項

1 これまでに書いた文章を読み返し、一年間の出来事を思い出させ、友達と話し合う。
2 最も強く心に残る事柄を想起し、思い出を詳しく文章に書かせる。
3 書いた文章を家の人に読んでもらい、感想を伝えてもらう。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 一年間の思い出を話し合う。</p> <p>② 心に残った出来事をメモする。</p>	<p>① 一年間の出来事を思い出し、思い出について話し合う。</p> <p>② ① うれしかったこと、おどろいたことなどを思い出し、心に残っていることを選ぶ。 ② ① 選んだ出来事を書いた文章を読み返し、詳しく書けそうなことをP27にメモする。</p>	<p>① ○これまでに書いた文章を読み返し、一年間の出来事を思い出させる。</p> <p>② ○これまでに書いた文章を読み返し、一年間の出来事の中で心に残っていることを選ばせる。</p>

<p>③ いちばん心に残っていることを文章に書く。</p>	<p>③ (1) 一年間を振り返って、いちばん心に残っていることを文章に詳しく書き直す。 (2) 自分の書いた文章を読み返し、間違いを正しく直す。</p>	<p>③ ○メモをもとに、心に残っていることを文章に書かせる。 ○P19も参考に、原稿用紙の書き方やかぎかっこの書き方など、学習したことを思い出しながら文章に書かせる。</p>
<p>④ 家の人に文章を伝える。</p>	<p>④ 書き直した文章を家の人に見せたり話したりして伝える。</p>	<p>④ ○書き直した文章を子どもに渡し、家の人に読んでもらえるよう持ち帰らせる。</p>

すきな おはなしは なにかな

《教科書との関連》
下「おとうとねずみ チロ」「すきな おはなしは なにかな」

一 学習目標

- 1 いろいろな本を読み、読書に親しむことができる。
- 2 読んだ本の感想をもち、絵や文に書いて、友達に紹介することができる。

二 指導事項

- 1 読み聞かせを楽しんだり、読みたい本を探して読んだりできるようにさせる。
- 2 好きな本について、好きなところの文や絵を書かせる。

三 展開例

<p>学習の流れ</p>	<p>学習内容・活動</p>	<p>指導上の留意点</p>
<p>① 好きな本を選ぶ。 ② しょうかいカードを書く。 ③ お話の「すきな人ぶつとその人ぶつがしたこと」「おもしろかったところ」「かんがえたこと」を書く。</p>	<p>① 心に残っているお話や本を思い出し、好きな本を選ぶ。 ② P31の「しょうかいカード」を書く。 ③ 例を参考に、自分の好きな本の中から文を選んで書く。</p>	<p>① ○読み聞かせを聞いたり読書をしたりする中で、心に残っている本を一冊選ばせる。 ② ○好きな本について、好きな人物のどんなところが好きかを書かせる。 ③ ○「すきな人ぶつとその人ぶつがしたこと」は本の中から抜き出し、「おもしろかったところ」は音読したときにおもしろかったことを、「かんがえたこと」はお話を読んで思ったことを書くということを確認させる。</p>